

こうち、(再) (新) 発見！

TOSABUSHI

とさぶし



高知家

【第8号】
二〇一四年

TAKE FREE

目次

特集

高知のクラフト

アゲアゲ天国

宇佐の土佐真珠

せがーる

坂本香（坂本農園）

でんづきでんづき

犬と人

伝説探訪

早飯食い

戦国 元親くん

あきらめない

暮らしのこだわり

スモールミュージアム

とさぶし調査隊！

ぶーしーず

お山の国際現代美術館

とさぶしお知らせコーナー

TOSABUSHI

とさぶし 第8号
2014年

はみだし企画満載！web限定コンテンツ

web版 “あだたん”
<http://tosabushi.com>

電子書籍版、配布場所は上記HPをご覧ください iPhone、iPad、Android対応！

facebookもやってます！

<http://www.facebook.com/tosabushi>

発行
高知県文化生活部文化推進課

〒780-8570 高知市丸ノ内1丁目2番20号（本庁舎5階）
Tel 088-823-9793 Fax 088-823-9296
E-mail 140201@ken.pref.kochi.lg.jp
発行日：2014年9月24日（季刊）

企画 とさぶし編集委員会
制作 南の風社

バックナンバーの入手方法

お近くに配布先がない場合は、送料分の切手を送っていただくと、受け取り次第発送をいたします！

【送料】

1冊・2冊 180円

3冊 215円

4冊・5冊 300円

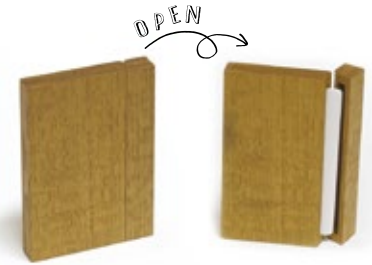
6冊以上の場合は、一度ご連絡ください。

お問い合わせ・送付先は、高知県文化生活部文化推進課（上記）まで。

ニホンジカ：日本に広く生息し、秋の季語として和歌に詠まれたり、角が漢方薬に使われたり、人にとって身近な動物。しかし近年、山間部で大繁殖し、森林の食害が社会問題に。高知県では猟師が仕留めたシカをおいしく食べようという取り組みも広がっています。



このパンフレットは宝くじの収益金の一部で作成しています。



木の名刺入れは 72mm × 105mm × 12mm のサイズ。3,500 円～。
川村雑貨店(須崎)、日曜市、オーガニックマーケット(第2土曜)
などで販売している。

スマホよりひと回り小さく、継ぎ目も、装飾もない一枚の木の板。一方をバカッと割ると名刺が現れ、コンという音を立てて閉まるのも心地いい。サクラ、ナラ、ウォールナットなど、木の種類によって違う色合いや手触りを選べ、さらに長く持つことで手に馴染み、自分だけのものになっていく。

「なんていうか、土のある生活がしたいというか」。植村和暢さん(43)は、種子島出身。高知大学で林業を学び、卒業後は飛驒に移り家具工の修業をした。独立を考えた時、思い浮かんだのは高知だった。何度も通った演習林、素潜りした海。場所を探して箱バンで高知を回っていたところ森林組合の人と偶然知り合い、須崎市上分^{かみぶん}に落ち着いた。

ある時、農業高校に勤める大学の先輩が結婚することになり、引き出物用の名刺入れを作った。

高知に移り住んで10年。夫婦と子ども4人の一家を半農半工で支えている。暮らしの中で思い浮かんだアイデアを膨らませ、家具や子ども用のイスや机なども作り、古い家具の修理やまな板のカンナがけも手がける。「木の家具は、人の一生よりも長持ちする。本物の木を使えば、次の職人さんも修理できて、何世代も使ってもらえる」。



緑の多い環境で名刺入れが生まれた。



Brackaの手縫いのブローチ
動物なのに人間のような表情や佇まいに一目惚れ。細かい刺繍は見ていて飽きません。



結城琴乃さんの木と針金のオブジェ
まるで汽笛が聞こえてきそうな船のオブジェ。木の力強さと、ガラスの繊細さが気に入っています。



かわぞえうどうさんのピンバッジ
動物や乗り物のピンバッジは、まるで絵本から飛び出てきたよう。

Million Luckyのコインケース

手染めの皮を富士山形にした貯金箱。
意外なアイデアとメッセージにドキドキします。



コトリコトリのはんこ

はんこのイラストや文字はもちろん、
持ち手が動物や人の形のものもあり、飾ってもかわいい。

「刻屋の名刺入れを扱う」

川村雑貨店

高知県須崎市赤崎町 1-3-3



糸の
おすすめ!

私は物語のある作品や、作家の世界観が溢れる作品を見るのがとても好き。
日用品の雑貨店というより、個性的な作品の展示場のようなお店づくりをしています。

店主：かわむらひとみさん

ポケットに 木の手触りを

—工房刻屋の名刺入れ



高知のクラフト

暮らしの中の小さな驚きや発見を、
身近な素材に映しだす。
ひとつとして同じものはない、
手しごとが生み出す逸品。
手元におけば、さりげなく心地いい。

The craft of Kochi





つちのいしは 2,500円〜。
工房 (いの町下八川乙・瀬地バス停向かい)、神戸岡本店 (兵庫県) で販売している。

心
に
灯
が
燈
る

— mow candle の
つちのいし —

赤、青、黄色、緑に白。両手にすっぽり収まる、川にころがる小石のようなキャンドル。そっと火を灯すと中心部が溶けて空洞になり、溶けずに残ったロウがランプシェードのよう。火を点ける時間やタイミング、環境によってロウの溶け方が変わっていく。形を整えたり、そのままの溶け方を楽しんだり、自分なりに「育てていく」感覚もおもしろい。



花や植物がいっぱいの工房は、作品のアイデアが湧いてくる。

ブローチは 3,800円〜。
WEBショップの他、KIKI (高知市)、chimny (香美市) などで販売している。



— KOMOREBI Jewelry のブローチ

遊び心を身に付ける

ハナミズキ、アジサイの小さな花、イチヨウの葉……。花や葉の金属のブローチは、身に付ける人の記憶を呼び起こす。子どもの頃に葉っぱや花を摘んで麦わら帽子に飾ったこと。思い出の草花を部屋に飾って忘れないようにしたこと。デフォルメをせずリアルな形だからこそ、時を経て色が変わっていくことさえ楽しめる。

平らな金属の板を花や葉の形に切り出して、トンカチで叩いて曲げ、本物そっくりの曲線をつくる。「来る日も来る日も、トンカチ、トンカチ。花びらや葉の質感に近づけていく地道な仕事」。彫刻刀で葉脈を刻み、上から白い塗料をコーティングして、やすりで削る。わざと火で炙って磨き上げをしないことで、ナチュラルな風合いを作る。

諏訪真里さん(31)が植物の作品を作るのは、浦戸湾を臨む高知市御畳瀬で育ったから。「父が鉛を溶かして作った釣り針で魚釣りをしたり、山芋の種を鼻に乗せては「天狗の鼻」と言って遊んだり」。

結婚して市内の団地に引っ越した今も毎朝、1歳の息子と近所を散歩する。葉っぱを拾えば、幾何学的な葉脈に目を奪われ、枯れかけた花にもひなびた美しさを感じる。「一本の枝についた葉や花、花びらひとつとっても同じものはないんです」。葉っぱを乾燥させて紙袋に貼りつけたり、紫陽花や山芋の種などは展示用にストックしたり。アトリエは常に植物でにぎやかだ。



休憩は工房前の河原で。童心に戻れる場所。

村山匡史さん(32)は、仁淀川中流域のいの町下八川に工房を構え、自然のできごとをキャンドルで表現している。「がけ崩れした岩から生えた植物の生命力とか、山に突き刺さった自分の背丈くらい岩から漂うただならぬオーラとか」。

ある日、疲れて河原に出てぼーっとしていた時、ふと川の石が目についた。「あれ、石って、こんなに丸かったっけ?」。何万年も地層が堆積して、何かの拍子に崩れて、川を下って丸くなる。「石と同じような作り方をしたら、僕の気持ちに伝わるがやないろうか」。色とりどりのロウを柔らかくして高く積み重ね、固まったら荒く切り出す。それを溶けたロウの中に浸して、石のよう丸さや滑らかさを表現した。

時折、キャンドルを作るきっかけになった友達言葉を思い出す。「おまえ、こんなこと始めたがや。すごいねー!」「明日からあたしも頑張るさ」。いつもの仲間との飲み会にさりげなくキャンドルを飾っただけなのに、こんなに感動してくれるなんて驚いた。自らイベントを企画するようになり、巨大な木のキャンドルを飾ったり、花の形のキャンドルを水面に浮かべたり。意表を突く演出が評判になり、結婚式場や野外イベントに呼ばれることが増え、いつの間にかキャンドルが生活の柱になった。ゆらゆら揺れる火の光は、人に元気を灯してくれる。



ばうむ合同会社のもくレース

横北杉でできていて、コースターや鍋敷として使い、木のレースという意外さが女性にうけています。



cocoro*kurumu のはちきん封

土佐和紙のご祝儀袋。紙も水引もとにかくシンプルなので、どんなシーンに使っても映えます。

内外典具帖紙の あつてん土佐まき和紙

ロール状の耳付和紙は、水でぬらすと手漉き風にカットでき、絵手紙、包装、お品書きなどいろいろ使えます。

クラウドオリジナルの「仁淀川手拭い」

仁淀ブルーの中を泳ぐ、川の生き物たちの手拭い。お土産に、また手土産を包んでもおしゃれに使えます。



カタオカ印刷の GOZARU BAG

本体も取っ手も全て紙。A4サイズの書類なんかを入れてサブバックとして使うのもおススメですよ。



KOMOREBI Jewelryのブローチと
mowcandleのキャンドルを取り扱う //

土佐和紙工芸村「クラウド」

Q R A U D

tosawashi kogeiimura
高知県吾川郡いの町鹿敷1226

レストランと宿泊施設を兼ねている道の駅なので、県内外さまざな方が訪れます。目の前を流れる仁淀川流域の産品や、女性の目を引くような商品を選んでいきます。

そいの
おすすすめ!



店主：西川美佐さん

ここで買える

土佐刃物流通センター(香美市土佐山田町上改田109)

ZAKURI WEBサイト(<http://www.zakuri.com>)

土佐打刃物

ZAKURIの
多目的ナイフ

農業や家庭菜園をする人が腰からぶら下げ、野菜の収穫や枝切りなどに
超便利! もちろん荷物の紐や段ボール切りなど、なんでも使える多目的ナイフ。
「かつて麻袋を切るために使われたナイフを、現代風にアレンジしたら」。土佐刃物流通センターのスタッフと土佐打刃物の若手の鍛冶職人集団「ZAKURI」のメンバーがアイデアを出し、山崎龍太郎さんが作っている。
土佐打刃物の歴史は、長宗我部元親の時代にさかのぼると言われていて、その後、林業や農業用打刃物へと進化を続けてきた。土佐打刃物の特長は、日本刀と同じ高品質な刃物鋼を用いること。叩いて鍛えることにより、金属組織を微細化し、切れ味・耐摩耗性・刃の粘りを与えている。

竹細工

竹虎の
ランチボックス

不思議な模様のランチボックス。細い竹、太い竹が丁寧に編み込まれ、ふたと本体はピタッと合わる。竹細工の中でも四角いものは難しいと言われ、熟練の職人にしか作れない形だ。

山間部がほとんどを占める高知県は、古くから木工や竹細工が盛ん。須崎市の竹虎は、明治27年創業。火で炙ると虎の模様が現れる「虎斑竹^{とらふだけ}」を使った竹製品を作り続けている。

「お弁当箱の蓋をとると、竹のいい香り。いつものおにぎりがこ馳走にみえた」とは愛用者の声。金属やプラスチック製品ではなく自然素材のものを使いたいという人を選ばれている。

高知の伝統工芸

土佐和紙、土佐打刃物は、長い歴史と高い技術を持ち、高知を代表する伝統工芸品です。その他、宝石珊瑚、フラフ・のぼり、土佐風、尾戸・能茶山焼、内原野焼、土佐古代塗、まんじゅう笠、土佐つむぎ、佐川竹細工、虎斑竹細工、安芸國鬼瓦、土佐硯など、高知に伝わる工芸品はたくさんあります。

土佐に脈々と息づいてきた技術を引き継ぎながら、時代の動きや使い手の声に耳を澄ませる職人たち。型にはまらず、思いや感性を表現する若い作り手も入り交じり、クラフトは常に進化しています。

ここで買える

ほのまるハートアートギャラリー(香南市野市町西野1444)

伝統を 受け継ぐ クラフト

The craft of Kochi

土佐和紙

和紙工芸はづみのくじやくだま

「ガラスかな?」と思つて手に取ると、意外な軽さに驚いた。「和紙ジュエリー くじやくだま」は、和紙を染め、重ねて糊で貼りあわせ、乾燥、カット、研磨という工程を経て作られる。ガラスと違って「落としても割れない」、紙なのに「水に溶けない」ところが特徴だ。

表情になるんです。同じものはひとつもない。
かの紀貫之が奨励したという紙作りは、平安時代から高知が誇る産物。厚さや質感の様々な土佐和紙の織りなす模様に、思わず目を奪われる。

ここで買える

竹虎直営店(須崎市安和913-1)

インターネット店(<http://taketora.co.jp>)

23ページを
見てね!



特集で紹介した商品を
「ふしからの贈り物」で
どんとプレゼント!



ショーケースに浮かぶ宝石サンゴ

宝石サンゴは、江戸時代に土佐の漁師が発見したと言われ、明治以降サンゴ漁が盛んに行われました。その後、サンゴに細かな加工を施す職人が生まれ、高知が誇る伝統産業に育ちました。最盛期に比べると生産量は減りましたが、今も商店街のサンゴ店を覗くと、サンゴのアクセサリーが輝きを放っています。

土佐真珠

宇佐の町を歩いてみると、
お菓子屋の店先に「真珠」の文字。
なんだろうと店を覗くと、
貝の形の最中菓子。
一口食べると、
あんこの中から真珠が現れる。



「この海で真珠を養殖していた時代があったがです」。北代菓子店の四代目店主、北代晃一さん(34)は「県交通の車庫の辺りに工場があって、宇佐の人はみんな働きに行きよつたと母が言うてました」と記憶をたどる。昭和30年代、浦ノ内湾の漁師のほとんどが真珠養殖に携わるほどだったが、長くは続かず10年ほどでハマチ養殖などに切り替わった。

晃一さんの曾祖父が駄菓子屋を開いたのが明治43年。二代目の祖父は和菓子の修業をし、真珠養殖で活気のあった時代に「宇佐の銘菓を」と真珠型の最中菓子を考案した。毎日炊いたあんこを貝型の最中に詰め、真珠に見立てたお餅を入れる。今も毎日100個、お盆やお彼岸は300〜400個を作る。

三代目の父が亡くなってから、晃一さんは店を継いだ。「味も材料も変えていません。ただ自分は昔の味がわからないので、今でも91歳の祖母が味見担当」。しかし最近、常連さんに「餅が大きゆうなつたがやない?」と言われる。餅もあんこと同じく手作り。餅粉を練って棒状にし、包丁で切り分ける。「あの餅が好きとお客さんに言われているうちに、自然と大きくなったがでしょうか」。



【北代菓子店】
高知県土佐市宇佐町
宇佐 1743-3

坂本農園
坂本 香さん

この風景を 残したい

高知の山地はお茶の産地。
自分にできることを探して、
茶畑を残そうとしている。



四十十川の源流地・不入山^{いらずやま}のある津野町は、寒暖の差があり、霧の立ち込める山深い場所。ぐねぐねした道に車を走らせると、山の斜面に茶畑が現れる。「この山の自然な曲線に沿ったお茶畑は、ほんとうにきれい。お茶の木を刈り込む度に爽やかな茶葉の匂いに包まれて、夜は満天の星空が広がる」。茶業を継ぐことを決意した坂本香さん(34)は、「だから、ここで」と笑った。

父が拓いた茶畑



旧・東津野村は古くから山茶^{やまちゃ}が自生し、江戸時代に中国地方や九州へ出荷された記録もある。1959年頃から村の農協は茶生産に本格的に取り組み始めた。当時、村の現金収入といえば、コウゾやミツマタなどの紙原料くらいのももの。新しい産業をおこそうと村の気運は一気に高まった。



香さんの父・延夫さん(70)は、18歳の時、村の人に誘われ茶業伝習所きしよがないと思うちよったがですよね」。体重は落ち、仕事に行くことが難しくなっていました。同じような症状に悩む友人の勧めで病院に行くと、化学物質過敏症と診断された。

思い返すと、畑では農薬散布が盛んに行われていたし、新芽が芽吹きだした春先は霜が降りないようにお茶の木に寒冷紗^{かんれいしや}をかけ、その横で廃材やタイヤを夜通し燃やしていた。ひよっとして、と不安がよぎった。



① 1960年代の茶畑。茶葉を手で摘み取っていたため、最盛期は何十人も人が働きにきて、お昼は畑でお弁当を広げた。



② 1970年以降、茶を刈る機械ができて、収穫が楽になった。最盛期は、一番茶、二番茶、三番茶まで摘んで出荷していた。茶摘みを手伝う小さな女の子は、香さん。

で茶の生産と製造を習った。お茶栽培に可能性を感じ「うちの畑を茶畑にさせてくれ」と家族に訴えるも、「コウゾ、ミツマタで生活できちゅう」と許しが得られず、しかたなく最も不便な10aの段々畑にお茶の木を植えた。それから土地を買い足し、萱^{かや}が生い茂る急斜面の荒地を鍬^{くわ}で耕し、30歳になる頃は茶畑を2.3haまで増やした。

茶畑で育つ

お茶に没頭する延夫さんは、末娘が生まれると迷わず「香」と名付けた。幼い香さんの遊び場はいつも茶畑。父について畑に行き、兄や姉と朝から晩まで畑を駆け回った。「私が生まれて半年後に母が亡くなり、父は腹巻に哺乳瓶を忍ばせて私を育ててくれたがです」。

寝る間を惜しまず働く父の姿は、香さんの目に焼きついた。毎日、朝早くから畑で茶を摘み、茶葉を工場に運び夜中まで荒茶の加工作業。新芽を摘むタイミングを見定めたり、新鮮な茶葉を丁寧^{ていねい}に蒸したり、より香り高いお茶を目指して工夫を重ね、県内外の品評会で何度も受賞した。

荒茶の買い取り額は1kg5千円の高値をつけ、1日分の出荷で100万円以上になることも。村の農協も茶の売上を伸ばし、1996年には

お茶の危機

お茶を取り巻く環境に変化が起き始めた。全国的にお茶を淹れて飲む家庭が減り、茶葉とペットボトルの茶飲料の売上額が2005年に逆転した。さらに産地表示の義務化で静岡や京都に出荷していた茶葉の販路が激減し、お茶の価格はピーク時の1/3まで下落。この50年で村のお茶農家は85戸から40戸へ半減し、75haあった茶畑もわずか29haに。美しい茶畑は荒れた。

時を同じくして還暦を迎えた香さんの父は、茶畑の経営を弟に任せ、一切タッチしなくなった。香さんは、そんな父の姿に疑問を感じ、思いをぶつけた。「地域をよくしよう」とずっとお茶でがんばってきたのに、悔しくないが? せっかく広げて整備した茶畑がなくなってしまうてえいが?」。津野のお茶畑はどうなるのか、父がしてきたことは無駄だったのか、あきらめるしかないのか、答えを見いだせなかったが「お茶農家の娘」という意識が頭をもたげてきた。

私にできること

香さんは無農薬や有機栽培などに関心を持ちはじめた。元々、家族が食べる野菜には、農薬や化学肥料を使っていない。それをお茶栽培にも



1億8千万円を超えた。

香さんは中学、高校に進学しても、茶摘みシーズンには仕事を手伝った。「私はお茶農家の娘」、香さんの意識に染みついた。

体の変化

父を助けて家族の食事を作ることも多く、料理をすることが好きだった香さんは、24歳頃からパン屋や洋菓子店で働くようになった。しかしある日、いつも食べているパンに妙な味を感じた。周りから洗剤や化粧品^{化粧品}の臭いが漂^{はら}ってくると思が苦しくなる。

小さい頃から、畑にいくと体がしんどくなったり、体にブツブツができてきたりするのはしょっちゅう。病院で検査をしても原因はわからず、「手先や足先がいつも冷たくて、しもやけもひどかった。アレルギー体質や



でんづき でんづき

vol. 08

なんちゃじゃ
ないけど、
クセになる
“とさぶし写真館”

©Yozo Oda



高知市帯屋町の中央公園にて。人と犬との主従関係は、時として不確かになることもあるようです。

写真・文 織田 庸三



パソコンソフト「ペイント」で描いたラベル。ハンコを押したクラフトの蓋に、小さな蝶々結びのリボンでアクセントをつける。

「中華風キャラメル柿」「ミラクル・キウイ」「チャツネ」など不思議な名前のジャムがちらほら。同じ素材を使っても、「おもしろ味」を足している。

生かせないかと、父や叔父と話すことが増えた。茶畑を管理する叔父は、虫や病気の害がひどい時だけ消毒をする低農薬栽培に少しずつ切り替え

ていった。

玄米菜食で食養し、少し体が動かせようになった香さんは、ある日、家の倉庫で驚いた。目の前に、コンテナ一杯の腐った生姜。「せっかく手をかけて育てたのに、もったいない」。採れすぎた野菜や果物をジャムにした。「素材そのものの味を引き立てるよう、イメージを膨らませて、ぼやけた味にならないように」。イベントや土曜市に出店し、味見をしてみたら、「おもしろい!」。ジャムは毎週150本作り、味のバリエーションも増やし、県外のイベントに出たり、置いてくれる店を見つけたりと、順調に「常連さん」を獲得した。3年目、パン屋でアルバイトしていた頃と同じくらいの収入を得られるようになった。

地に足をつけて

2012年の春、香さんは新茶を真新しいパッケージに包んだ。付けた名前は「坂本農園」。栽培するだけの農家から加工や販売をする農園へ、自身の思いを込めた。津野町がアンテナショップを高知市に出店

し、常にお茶を売る場を持てたことも背中を押した。「高級品ではなく、飲みやすく、毎日飲めるお茶。ペットボトルのお茶を飲んでいる若い人がお茶を淹れてくれたら」。

いつもジャムを買ってくれる常連さんもお茶を買い求めてくれた。「おいしかったよ」の声を励みに、少量パックやブレンド茶など、種類を増やしていった。「お茶を飲んでくれる人を増やすことで、茶畑が守れる」。家業を継ぐ、覚悟が決まった。

晴れた日は、お客さんや友人を茶畑に案内することがある。一緒に畑を散策して、茶畑の風景を見ていると、「山茶を復活させたい」「津野のお茶を残していきたい」と意欲が湧いてくる。「いなかの生活も、自分の体調も、ちよつとばあのがわるいぐ



一番茶を摘んだ6週間後に二番茶を摘む。一番茶は、新芽の上の方を刈り取るため、どうしても摘み残しがでてしまう。二番茶の前に、新芽の残った葉と、親の葉と一緒に摘んだものを、津野町では「親子茶」と呼ぶ。



ミニ土佐弁講座

のうがわるい：人の体の機能や生活における都合の良さを「のうがえい」「のうがわるい」という。頭が悪いことではない。ぼっち：ちょうどいいこと。



①この日のために「神田」の新米を4升炊いた。てんこ盛りの白飯に、椿の葉に載せた焼ミソが添えられている。

②祭り当日、氏子は正装して集まり、神様にお供えをし、神官と太夫が神事を行う。そのあと、早飯食いが始まる。

③祭りの世話は8人の「当人」が行う。祭りの前日は「大口開け」といって、当人が集まり、マグロの刺身、ねじりこんにゃく、たたきゴボウを肴に酒宴を開く。



教えて先生

高知県立歴史民俗資料館
梅野光興さん

高川の早飯食いは県内に類例のない行事です。四万十町(旧大正町)下道の霜月祭にはかつて山盛りのご飯が出たようですが、今はやっていないようです。大飯を食べる行事は日本各地にあります。神に豊作を感謝し、豊かな稔りを誇示する意味があるのですが、苦しみながら食べたり、高川のように早飯になったり、行事の焦点は変化しているようです。

これが祭りの前の静けさなのか。仁井田神社の社殿の中、村民が向かい合わせに並び、左手にてんこ盛りの白飯を、右手に箸を握り、祭りを仕切る当頭をジッと見る。

「それではみなさん、召し上がりください」の合図で、村民たちは目の前の白飯に「一斉に立ち向かった。

「ユーユー!!」「ユー!!」

「ユーユー!!」。

飯を食へるかと思いきや、村民は「湯を求めて大声をあげた。すると、米のとき汁を温めた湯をヤカンに入れた割烹着姿の女性が、村民の間を忙しなく行き来し、碗に湯を注ぐ。片や、「ミソ!ミソ!」と叫び、椿の葉に載せた焼ミソをおかわりする者も。時おり湯をこぼしながらも飯を飲み干した強者は「ゼン!ゼン!ゼン!」と叫び、ドヤ顔でお膳を持ち上げた。その隣では、おぼ



あさんが飯を喉に詰まらせ「ゴ、ユー」と声を絞り出している。とにかく早く飯を食うことに命を懸けたお祭りなのだ。

以前、当頭を務めた永野満福さん(86)によると、土佐山は平家の落人の伝説が多く言い伝えられ、源平合戦の出陣の前の慌ただしい食事になぞらえて、「早飯食い」が始まったという。

「この険しい山で稲は多く作れず、普段食へるのは麦とか粟とか雑穀ばかり。年に一度のお祝いに、白ご飯をお腹いっぱい食へるのは上ない幸せだったんでしょう。一説によると300年以上前から続く行事のようです」。

全員が食べ終わってお膳を返すと、今度はお寿司や皿鉢を開んだ宴会の時間となる。ゆっくり酒を酌み交わす村民は、ずいぶん穏やかな表情になっていた。

◆土佐山の平家の落人伝説◆

久万川部落の小高い場所に平家の落人が隠れ住んでいた。水を求めて山の向こう側に移り住んだが、馬の鳴き声がすると源氏の討伐隊に噂が広がり、戦いになった。落人は馬にまたがり「右立ケ」まで来た所で弓矢の一斉攻撃に遭い、馬はことごとく倒れ、久万川の西下の方で刀を抜いて戦ったが、最後の一人が「舟の宮」で力尽きた。今も「右立ケ」の下の畑に「馬塚様」という家畜の病をなおす神様がおり、西下の方は「戦場ケ久保」という地名が残っている。

(参考:土佐山村史)



秋の神祭といえは踊りや神楽ににぎやかな直会。しかし、高知市土佐山の高川地区は平家の落人に思いを馳せる奇祭が受け継がれている。



Information 早飯食いは、毎年11月8日に高川の仁井田神社にて開催しています。

黒田官兵衛の活躍もあっていち早く天下取りの主導権を握った秀吉は1583年、大阪城を築き始めた。一方、織田方の秀吉憎しの動きは収まらず、秀吉が進める西国制覇の布石として「四国」が重要度を増していった。

戦国元親くん 第8話 あきらめない

伊予、讃岐を返納せよ！
さもなくば退治する

2 常に隙をうかがう元親に秀吉は激怒。四国攻めを決断した。

1583年 賤ヶ岳の戦い(北近江)

頼む！秀吉の背後を突いてくれ！

おだのぶたか 織田信孝

1584年 小牧・長久手の戦い(尾張)

おだのぶかつ 織田信雄

おだのぶたか 織田信孝

おだのぶたか 織田信孝

おだのぶたか 織田信孝

1585年

秀吉め、大坂城の柱でも磨いておれや！

おあわわわ

もう来るの？早く来ない！

来るなら来い！都の兵に目にもみせてやる！！

おう！！

いちりょうぐそく 一領具足たち

小早川隆景ら毛利勢

安芸 (先鋒役) 黒田官兵衛ら

姫路

淡路島

讃岐

元親の本陣：白地城

阿波

伊予

土佐

(大将) 羽柴秀長ら

1 わしを四国の覇者と認めているからだろう

まいったな

近畿3国を与える、参戦してくれ！

もとちか 元親

とくがわ いざやす 徳川家康

小勢力の分立から四国が統一されてくると「四国」の地理上の重要性が一層明確になってきた。

1585年

秀吉め、大坂城の柱でも磨いておれや！

おあわわわ

もう来るの？早く来ない！

来るなら来い！都の兵に目にもみせてやる！！

おう！！

いちりょうぐそく 一領具足たち

小早川隆景ら毛利勢

安芸 (先鋒役) 黒田官兵衛ら

姫路

淡路島

讃岐

元親の本陣：白地城

阿波

伊予

土佐

(大将) 羽柴秀長ら

白地城

秀長様は土佐一国の安堵を保障しています

毛利勢も加わり数も武具も圧倒的に不利です

元親の腹臣 谷忠兵衛

農民が米一粒を大事にするように、一人の農民の命を落とさせないことが大事。

よし、引っこう！

くくやしい...しかし、

九州!? 軍大将?

秀吉殿は関白になられた

ここは一旦引きまし

1586年

お前達は、大友と力を合わせ、島津に備えよ。

秀吉の家臣 仙石秀久

元親の長男 宗我部信親

父上、九州攻めの軍大将の役割は誉れ高きこと。ここで手柄を立てればチャンスが回ってきます。

まさか秀吉の命に従うようになるとは思ひもかけないことだったが、元親はあくまで信親を担いだ天下取りへの参画をあきらめてはいなかった。

4 この戦で土佐は戦場にならず、山河は残り、何よりも勇敢な一領具足たちは無傷だった。

土佐に戻ってもう一度態勢を整え直そう

パカラッ パカラッ

まさか秀吉の命に従うようになるとは思ひもかけないことだったが、元親はあくまで信親を担いだ天下取りへの参画をあきらめてはいなかった。

1586年

5 1年後、大友宗麟の支援要請で秀吉に従おうとしない島津に対し、豊後(大分)出陣を命じた。

お前達は、大友と力を合わせ、島津に備えよ。

秀吉の家臣 仙石秀久

元親の長男 宗我部信親

父上、九州攻めの軍大将の役割は誉れ高きこと。ここで手柄を立てればチャンスが回ってきます。

まさか秀吉の命に従うようになるとは思ひもかけないことだったが、元親はあくまで信親を担いだ天下取りへの参画をあきらめてはいなかった。

6 天下はさらに先にある！秀吉のために死んだらいいかんで！！

いいか！信親！

まさか秀吉の命に従うようになるとは思ひもかけないことだったが、元親はあくまで信親を担いだ天下取りへの参画をあきらめてはいなかった。



今年はナマズの標本にチャレンジ中。骨をパーツごとに分類して、組み立てていく。



どこか人間味のある動物の作品がさりげなく家の中に置かれている。



スモールミュージアム

探究心が
無限に広がる。

お家は

アートな博物館。

藤田 浩徳さん(49)

俊子さん(45) 高知市長浜

界が広がるから。

ちょっとした公共のスペースや学校の空き教室でも、子どもが作った自由研究や絵をアートの展示すると、それを見た別の子が影響されて次の探究につながっていく。ただ壁に吊るすだけじゃなくて、自分で陳列台を作ったり、ライティングしたり、見せ方を工夫すると楽しいですよ。例えば、一匹だけの昆虫標本に、スケッチを添えたりすると十分アートになりますよね、こんな風に。



長男が6年間まとめた研究ノート。タヌキの解剖の様子も細かく記されている。

夫婦ふたりとも彫刻や鍛金をやるので、大工仕事は得意。古い平屋を買って、自分たちで壁を抜き、屋根も葺き替えて、配管もして、家族の住まいにしました。自分たちの作品も飾って、暮らし自体が遊びになるのがいいですね。

長男が小学生になった時から、自由研究で昆虫標本を作るようになりました。最初は子どもと一緒に試行錯誤。蝶の羽根の広げ方が難しいとか、バッタはお腹に綿を詰めないといけないとかで、せっかくなかったりも多々ありました。自分で調べたり専門家に聞いたりして、だんだん要領がわかってきました。毎年、同じ場所ですべての昆虫も、何年か続けると個体の大小や採れる数に変化があるのがわかります。さらに、下の子は兄がやったのを見て、また違う採集やまとめ方で研究を「上書き」しているんですよ。

去年は空港の近くで車に轢かれたタヌキを拾ってきて、骨格標本にも挑戦しました。内臓を抜いてから、使わなくなった風呂桶に浸けて腐らせ、2か月かかりました。途中、水を換える時は臭かったりして大変でしたが、知らないことをやるのはいいですよ。自分の技術にもなるし、そこから新しい世



3兄弟はジュニアオーケストラにも所属する。親子5人でセッションすることも。



